

令和3年度学内版 GP 成果報告書

取組名称	ICT を活用したウィズコロナ時代の海外研修プログラム開発 ～COIL 型国際共修の本格的導入によるパラダイムシフト～	
実施組織 (または対象のカリキュラム)	グローバル化推進センター	
※連携する他学部・機関がある場合は記入	e-Learning センター・マレーシアプトラ大学・ノヴォシビルスク大学	
実施責任者(所属)	仙石祐(グローバル化推進センター)	
取組の目標	国際共修に Collaborative Online International Learning (COIL)と呼ばれる、ICT を活用した海外大学とのオンライン協働学習を導入することにより、ウィズコロナ期の新しい海外研修プログラムを開発する。	
1. 目標達成のために行った活動と成果 (箇条書きで項目ごとに番号を付けて記載。成果の詳細は必要に応じて別添とする)	1. 国際共修授業への COIL 型協働学習本格的導入…グローバル化推進センター教員が担当する国際共修授業(共通教育科目)で、海外の大学と COIL 型協働学習に取り組むコマ数を増やした。 2. コロナ対応オンライン海外研修プログラムの開発及び実施(海外研修代替)…海外研修の代替足りうるオンライン海外研修プログラムを全学生向けに開発し、ICT を活用して学び合う国際共修として実施した。 3. 松本附属学校園での国際共修プロジェクト化…松本附属学校園の生徒らの国際共修をオンラインとオンサイトのハイブリッド化し、定期的なプロジェクトとして実施した。	
2. 目標達成度に関わる所見と今後の展望 (達成の度合いを選び、そう評価する理由と今後の展望を記述)	a. 達成できた	(評価理由) グローバル化推進センター教員担当の 5 つの国際共修授業において、それぞれ数回ずつの COIL を実施した。また全学向けのオンライン海外研修プログラム 2 つを開発のうえ実施し、全ての学部から参加者があった。附属松本中学校では月 1 回の国際共修が定期化し、小学校にもプロジェクトが拡大した。
		(今後の展望) オンサイト型の派遣と受入が復活しつつあることを踏まえ、今後はオンラインとオンサイトのハイブリッド型プログラムの開発・実施に注力したい。